

【高学年・指導案】

第6学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

令和7年6月23日(月) 第5校時
男子18名 女子10名 計28名
指導者 教諭 杉山 圭汰
場所 6年1組教室

- 1 単元名 「プロジェクトS」
～私の未来設計図～
- 2 単元について
(1)第6学年グランドデザイン

校内研究のテーマ

確かな学力を育てる

～本気の課題に向き合い 未来を『そうぞう』する～

児童の実態・思い

児童は総合的な学習の時間の学習に意欲的に取り組んでいる。6年生のスタートにあたり、「卒業」という小学校生活のゴールをイメージさせた。しかし、その後の人生を見通すと、児童にとって卒業はゴールではなく、小学校卒業後も進学し「学び続ける」未来が待っていることに気付くことができた。それは目標に近づくため、可能性を広げるため、将来の選択肢を広げるためと、自己のよりよい生き方につなげるためにも学ぶことが大切だと考えていることが分かった。これからの自分について思いを膨らませると、目標がはっきりとしている児童もいるが、具体的にになりたい姿を思い描くことができない児童もいる。また、来年度進学する中学校生活への期待と不安、目標とする職業に就くためには何をすればよいのか、将来の自分はどんな自分になりたいのか、自分自身と向き合い、考えたいこと、調べたいことがたくさんあることに気付いていた。

教材観（その教材で学べること）

本単元では、小学校最高学年である6年生の児童が、小学校卒業後の自己の生き方について考えを深めるためにキャリアを材として扱う。小単元1では、将来なりたい自分について、児童の興味・関心に基づく探求課題を設定する。一人で夢や目標に近づくためにできることを考えるのは困難だが、友だちからアドバイスをもらいながら夢に近づくための方法を考え、実行することはわくわくにつながると考える。小単元2では、様々な人と話したり、実際に見たり体験したりして将来の夢に近づくための情報収集をする。また、プレゼンテーションをすることで情報を自分のものとして定着させる。児童にとって卒業は小学校生活のゴールであるが、中学校という新たな環境へ一歩を踏み出すスタートでもある。小単元3では、学区である第三中学校と連携し、中学校生活の実際について先輩の話を聞いたり、学校訪問をしたりする。中学校生活への不安を解消し、一人一人が明るい未来に向けた「未来宣言」を行う。

教師の願いと授業の手立て

本単元を通して、児童一人一人の「働く」ことについての意義を広げ、社会を作る一員としての心構えの素地を養いたい。また、中学校、その後の人生、未来に明るい希望をもち、思い通りに行かなくても諦めずに次に進むために人生の選択肢はたくさんあるということを心のめもりに刻んでほしい。このことから、単元全体を通し、社会で働く様々な人と関わったり、話を聞いたりする体験を適宜取り入れていく。小単元1では、児童の興味関心に基づく「働くとは」「職業とは」という課題について調べることを通して、人それぞれ働く理由や意義が違うことに気付かせたい。そのために保護者の方やハローワーク朝霞の方の協力を得て、様々な考え方に触れる機会を設ける。小単元2では、小単元1で立てた計画のもと、様々な職に関する方と交流し情報を得られるようにする。地域の方や、新座総合技術高校と連携を取り、人とのふれあいや体験を通して実際に社会で働くということを考えさせたい。小単元3では、第三中学校と連携を取り、中学校生活を体験したり先輩から話を聞いたりする機会を設ける。中学校進学に向けて今やっておくべきことや自分の課題を把握し、未来に向けた行動を実行させたい。

(2) 「確かな学力」とは

- ア 基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力
- イ 学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等

(3) 本校の目指す児童像

- 必要感・切実感をもつ子 (入口を子供たちを中心に置いて決める)
- 主体的に学ぶ子 (過程を思いっきり楽しむ)
- 自分の生き方に活かす子 (その続きもわくわくする)

〔目指す子供たちの姿を基にした仮説〕

① 「必要感・切実感をもつ子」

- ・子供たちが行動や実践から単元の学習を始めれば、興味関心が高まり「！」(気付き)や「？」(疑問)を自ら見付けにいき本気の課題をもつだろう。

② 「主体的に学ぶ子」

- ・自分が見付けてきた！や？を学級で考えて向かう課題やめあてが決まれば安心感が生まれ、対話的になったり、没頭して取り組んだりして主体的に解決へ向かえるだろう。

③ 「自分の生き方に活かす子」

- ・生活科や総合的な学習の時間を通して、自然や社会の一員として、既習事項や他教科と合科化しながら何をどのようにしていくか考えたり、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えたりすれば、自己の生き方の糧とするだろう。

〔仮説にせまる手立て〕

<仮説①に対する手立て>

- ① 将来の自分の姿を想起する。将来なりたい自分に近づくためには、職業について知ったり、働くことについての理解を深めたりすることが必要だということに気付けるようにする。また、将来(遠い未来)だけでなく、中学校進学(近い未来)に向けて、考える必要があることに気付けるようにし、自分のための探究活動をしていく必要性を理解できるようにする。
- ② 児童の興味関心をもとに、児童自身が学習計画(活動計画)を考える。

<仮説②に対する手立て>

- ① 児童の興味関心をもとに、児童自身が学習計画(活動計画)を考える。
- ② 対話の必要感のある対話場面を設定する。「調べたことを共有したい」という思いや「もっと調べるための方法を一緒に考えたい」という思いを児童自身が感じることができるようになる。また、対話を通して、「友達が考えたことを自分も実践してみたい」という意欲が生まれるようにする。

<仮説③に対する手立て>

- ① 単元のゴールを常に意識しながら学習を進め、自分の将来に活かすための学習を継続して行う。

(4) 研究主題との関わり

本校では「確かな学力を育てる～本気の課題と向き合い 未来を『そうぞう』する～」を主題としている。本単元では、児童の興味・関心から、活動計画を立て実践することを想定している。必要な活動を考え、実行に移すことは主体性を高めたり、本気の課題に向き合ったりすることにつながる。

総合的な学習の時間の中で、必要感・切実感をもち、主体的に学ぶことができるようになれば、教科を横断してその姿が見られるようになる。結果として、学習に意欲的に向き合う児童の姿が見られるようになり、確かな学力を育てることにつながる。

3 単元の目標

自分の将来について考える活動を考え、職業調べや体験活動を通して、将来の自分のために必要なことに気づき、なりたい自分に近づくために自己を見つめようとしている。

4 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<p>①なりたい職業の魅力、特徴、なるまでの道のり、働いている方の思いを理解する。</p> <p>②身近に働く方にインタビューしたり、なりたい職業のことについて調査したりする。</p> <p>③自分が就きたい職業についての理解は、その道のプロフェッショナルの協力によって情報を得て自分の将来について探究的に学習してきたことに気付いている。</p>	<p>①働いている方や就きたい職業の方との関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。</p> <p>②課題解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。</p> <p>③課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。</p> <p>④児童が作成した活動計画について話し合い、計画を再構築する中で、様々な可能性を考え合わせながら、自分の考えをまとめたり友達の考えと比べたりして、実現できそうな活動を考えている。</p> <p>⑤地域で働く人、就きたい職業の人との関わり合いの中で自己を見つめ将来について考え、相手にわかりやすく表現している。</p>	<p>①課題解決に向けて自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②自分と違う意見や考え、異なる職業のよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。</p> <p>③地域で働く人、就きたい職業の人との関わり合いの中で自己を見つめ将来について考えようとしている。</p>

5 活動の流れ(☆活用するシンキングツール・※横断する教科と単元名・◎考えられる表現の方法)

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
小単元名「働くということ」 (25時間)				小単元名「もっと自分の将来に近づこう！」 (25時間)				小単元名「充実した中学校に向けて」 (20時間)			
【小単元の目標】 ○職業について調べたり、身近な人に職業のことについてインタビューしたりすることを通して、「働く」とはどういうことかについて自分の考えを深め、今後の自分について考えることができる。				【小単元の目標】 ○1学期に立てた活動計画に沿って、自分の将来に近づくためにインタビューや体験活動等を行うことを通じて、自分の将来についての考えを深めることができる。				【小単元の目標】 ○身近な将来について考える活動を通して、中学校進学に向けた疑問や不安を解消し、中学校進学に向けた期待を高めることができる。			
【課題設定】 ○将来の自分について考える活動から、職業に対する気付きや疑問を見付ける。☆ウェビング 【情報収集】 ○朝霞職業安定所の方や保護者から話を聞く。 ※国語「聞いて、考えを深めよう」 ○EduTown「あしたね」を活用し、情報を集める。 【整理・分析】 ○職業や働くことについて得た情報を共有し、必要な情報を追加で収集する。 ○今後、個人でさらに収集すべき情報を考えたり、情報を得るための方法を考えたり、分析したりする。 【情報収集】 ○自分で調べることができる内容について、調べる。 【まとめ・表現】 ○調べたことをまとめ、発表をする 【課題設定】 ○将来の自分に近づくための活動計画(ロードマップ)をまとめ、学年で報告会をする。				【課題設定】 ○将来の自分に近づくための活動計画を立て、解決したい疑問や課題を見付ける。(1学期) 【情報収集】 ○新座総合技術高校の見学をし、高校生活の情報をつかむ。 ○働く人へのインタビューや様々な体験活動を通して自分の将来に近づくための情報を収集する。 ○インターネット等を活用し、必要な情報を収集する。 【整理・分析】 ○職業や働くことについて得た情報を共有し、必要な情報を追加で収集する。 【まとめ・表現】 ○プレゼンテーション大会で2学期の活動報告を行う。				【課題設定】 ○中学校生活に対する質問を収集し、課題を設定する。 【情報収集】 ○第三中学校の見学を通して、中学校生活についての情報を収集する。 ○中学生や中学校教諭の話を聞く場を設け、中学校生活に対する不安や疑問を解消するための情報を収集する。 【整理・分析】 ○集めた情報を共有し、小学校でやるべきことを分析し、中学校生活に向けた行動計画を立てる。 【まとめ・表現】 ○自分の将来に向けた思いをまとめ、保護者に伝える。 ○卒業式の未来宣言をする。			
【地域人材・関係機関】 朝霞職業安定所(ハローワーク)、新座市立第三中学校、新座総合技術高校、地域で働く方、市役所などの公共施設で働く方、様々な職業に関わる方々(保護者・地域の方)											
小単元①で目指す子供たちの姿 働くことについて考えを深め、世の中を支える多様な仕事を発見したり、自分の将来についての見通しをもったりしながら、なりたいたい自分の姿を考えようとしている。				小単元②で目指す子供たちの姿 自分の立てた行動計画に沿って、意欲的に職業のことを調べたり、体験活動をしたり、インタビューをしたりしながら、自分の将来に向けた期待を高めようとしている。				小単元③で目指す子供たちの姿 これまでの活動を通してなりたいたい自分の姿に近づくための方法に気付き、近い将来(中学校進学)に向けた期待を高めようとしている。			

6 単元の指導計画・評価計画 全70時間

単元名 プロジェクトS ～私の未来設計図～

小単元の指導計画・評価計画(19/70時間) ※25時間分のみ記載…それ以降の構想については(略)

<p>探究の過程</p>	<p>○主な学習活動 ・学習内容 「 」予想される児童の反応</p>	<p>◇指導上の留意点(配慮・手立て) ★評価 評価方法 発発言分析 記記述分析 つつぶやき分析 行行動観察 作作品分析</p>	<p>○言語活動 △活用する力 (SDGs、関連教科等) ●活用する資料、外部人材</p>
<p>課題設定</p>	<p>○自分の未来について考え、課題を設定する。 ・小学校卒業後の自分をイメージし、自分の将来の進み方をウェビングにまとめる。 「書けない。」「まだ決まっていない。」 ・どんなことを考えたり調べたりする必要があるか考える。 「なりたい仕事について調べる。」 「高校や大学について知る必要がある。」 ・自分らしく生きるとはどんなことか考える。 「働いてお金を稼ぐ。」 「興味のあることで働きたい。」 「親や働く人々はどのようにして職を決めたのだろう?」 「働くってどんなこと?」 ・どうして学び続ける必要があるのかを考える。 「自分の夢をかなえるため。」 「将来の選択肢を増やすため。」</p>	<p>◇単元の大きな流れについて講義形式で提案する。 ◇自分の未来に見通しをもてるよう、シンキングツールを配布し、有効的に活用できるようにする。 ★態①課題解決に向けて自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。記 ◇児童のこれまでの生活経験の中から「働く」ことについて知っていることを出し合うようにする。 ★思①地元で働いている方や就きたい職業の方との関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。発 つ ◇将来について調べる必要があることに気付くことができるようにする。気付いたことや疑問点などを学年で共有し、課題設定をする。 ★態①課題解決に向けて自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。発 つ</p>	<p>○自分の考えを言葉にして伝える。</p>
<p>情報収集</p>	<p>○身近に働く人から話を聞いて、情報収集をする。 ・インタビューで聞きたいことを考えさせる。 「なんのために働いているのですか。」 「どうして今の職に就いたのですか。」 「どうして働き続けるのですか。」</p>	<p>◇課題を基に、調べることやインタビューすることを決め、グループ内で共有させておく。 ★態②自分と違う意見や考え、異なる職業のよさを生かしながら協働して学</p>	<p>○インタビューで相手の考えを聞き出す。 △国語 「聞いて考えを深めよう」</p>

	<p>か。」 「どんなやりがい、楽しさがあるか。」 「仕事をするうえで大切にしていることはありますか。」 「6年生の私たちに「働く」ことについてアドバイスはありますか。」 など</p> <p>・一番身近な親にインタビューしたことをクラスで共有する。 「体力に自信があるから自衛隊に。」 →自分の強みを生かしている。」 「近くで働ける場所を探した。」 「子供を連れていけるサロンがなかったから自宅で開いた。」 「小さいころから好きなことを仕事にして今はパティシエ。」</p>	<p>び合おうとしている。記</p> <p>◇保護者や地域の方へ事前に周知をしておき、子供たちのインタビューがスムーズに行えるようにする。 ★態③地域で働く人、就きたい職業の人との関わり合いの中で自己を見つめ将来について考えようとしている。発 記</p> <p>◇インタビューする際、地域や保護者の方と関わるように、電話の仕方や言葉遣いなどを指導しておく。 ★知②身近に働く方にインタビューしたり、なりたい職業のことについて調査したりする。発 行</p> <p>◇地域や保護者の方と関わることで、「働く」には様々な意味があることに気付くようにする。</p>	
整理分析	<p>○調べてきたことを共有し、整理する。</p> <p>・身近な人々へのインタビュー結果から、働くとはどんなことか考える。 「大人の方は、自分の特技を生かしていたり、家からの距離で考えたりして、仕事を決めていた。」</p>	<p>◇時間を十分に設け、必要な情報を分析できるようにする。 ★思③課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。記</p>	<p>△道徳 「母の仕事」</p>
まとめ表現	<p>○働くことについて、まとめる。</p> <p>・働くということについて、分かったこと、自分なりに考えたことを新聞にまとめる。 「仕事を決めた時期は、高校生や大学生の時が多いので、まだ焦らず考えていきたい。」 「人のためになることがうれしいと答えている人が多く、働くというのは、人のためになることだと思った。」</p>	<p>◇整理したことを新聞にまとめる際に、要点を絞りながら分かりやすく新聞にまとめる。 ★態③地域で働く人、就きたい職業の人との関わり合いの中で自己を見つめ将来について考えようとしている。作 記</p> <p>◇働くということは人によって様々な思いをもっていることに気付かせ、今後の学習にも繋げることができるようになる。</p>	<p>△国語 「聞いて考えを深めよう」 △国語 「情報と情報をつなげて伝えるとき」</p>
課題設定 (本時)	<p>○なりたい自分に近づくために必要な課題・活動を考え、活動計画を考える。</p>	<p>★思④児童が作成した活動計画について話し合い、計画を再構築する中で、様々な可能性を考え合わせながら、自分の考えをまとめたり友達のと比べてたりして、実現できそうな活動を考えている。記 発</p>	

		★知①なりたい職業の魅力、特徴、なるまでの道なり、働いている方の思いを理解する。記	
--	--	---	--

7 本時の学習計画

(1) 本時の目標

○なりたい自分に近づくために必要な活動計画について話し合う活動を通して、働くことについて学ぶための多様な方法に気付くとともに、これから先も働くことについて調べたいという意欲を高める。

(2) 目指す子供の姿（評価規準）

○児童が作成した活動計画について話し合い、計画を再構築する中で、様々な可能性を考え合わせながら、自分の考えをまとめたり友達の考えと比べたりして、実現できそうな活動を考えている。（発言・記述）

(3) 本時の展開（19／70時間）

○学習活動 ・予想される子どもの思考と反応	★評価規準（評価方法） ☆指導の留意点、手立て	時間
<p><前時まで></p> <p>○調べてきた情報をもとに、働くということについて理解を深めるために必要な活動を考え、活動計画にまとめたものを確認する。</p>	<p>☆ロイロノートで自分の活動計画をまとめたものを共有できるようにする。</p>	2
<p>本時のめあて</p> <p style="text-align: center;">友達とアドバイスをし合い、活動計画をさらに楽しいものにしよう！</p>		1
<p>① 自分が計画した計画書を確認する。</p> <p>② 活動に助言をするための視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験をする。 ・その仕事をしている人にインタビューをする。 ・買い物をする。 ・作ってみる。開発してみる。 ・学校に呼んで話を聞く。 ・○○をするのは難しいかもしれないけれど、学校でも○○をすればできると思う。 	<p>☆教師が作成した例を提示し、活動計画に対してどのような助言ができたか思い出す。どんな内容を伝えて活動計画を再考すればよいのかイメージをつかめるようにする。</p> <p>☆「他の協力・工夫が必要」、「学校でできそうなこと」、「地域でできそうなこと」、「実行しやすいこと」の視点で考える。</p>	5
<p>発問：友達の活動計画をより、楽しいものにするためにどんなアドバイスができるだろうか。</p>		
<p>③ 友達と活動計画に対して助言し、必要に応じて計画を見直す。</p> <p>○話し合いをしながら活動計画に変更を加える。</p> <p><将来なりたい職業について決まっている></p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○にインタビューをする。 ・仕事を体験してみる。 ・仕事の様子を見学する。 ・学校で○○を試してみる。 <p><将来なりたい職業が定まりきっていない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事を体験してみる。 ・○○にインタビューをする。 ・様々な職業についてより詳しく調べる。 ・学校で○○のことを試してみる。 	<p>☆友達の活動計画を「充実」、「楽しく」、「わくわく」できるような計画にする方法を出すようにする。</p> <p>☆友達の考えを聞いて、活動を付け加えたり、配置を変えたりする。</p> <p>☆活動の不安（難しさ）を解消するための助言も行う。</p> <p>★児童が作成した活動計画について話し合い、計画を再構築する中で、様々な可能性を考え合わせながら、自分の考えをまとめたり友達の考えと比べたりして、実現できそうな活動を考えている。思④（発言・記述）</p>	3 3

【高学年・研究協議】

○児童が主体的に話し合いをし、考えが広がった。

○考えさせたいポイントの可視化ができていた。

▲必要感に個人差がある。

▲グルーピングを工夫するとよかったのではないか。

▲資格の話や専門的な知識の差で、アドバイスのしづらい児童がいた。

▲段階を踏んで、自分ができる具体的な手立てが必要。

【高学年・指導講評】

・同じでいいと子どもに伝えられるとよい。

⇒同じものが集まったら総意になる。

・計画は必要に応じて柔軟に変えてもいい。

・将来なりたい自分がない児童が将来なりたい姿を見つけられるようにすることもできるとよい。

・子どもたちの学びの足跡が見えるようにする。

⇒教室の掲示物は総合のものがあつたほうがいい（カメラで撮ったものなど）

・子どもの言葉から課題を立てると主体的に学ぶ子になる。

⇒子どもの言葉で始まって子どもの言葉で終わる

⇒教師が出した課題ではなく、みんなで決めた課題意識を持たせる。

・「働く」とは？を常に問い続けることを重視。

・職業体験を実際にやってみたり、自分でアポを取ったりしてはどうか

・グループの人数はどうだったのか

⇒子どもの主体性はあるが聞きたい情報に届かない。

⇒途中から行った子はいれない。さまよっている子もいた。

・楽しいだけでいいのか、毎時間楽しいことはあり得るのか

⇒できるかできないかの間だから面白い。

・振り返りは意図的指名がよい。

⇒前時の振り返りと比べて変容した子、より意欲的だった子に焦点を当てるとよい。